



『開発と次世代』
ユース交流会・意見交換会
世界開発報告 (WDR) 2007 と日本の役割
報告書

日付：2007/01/20

文責：大野曜子

目次

イベント概要	p.1
当日プログラム	p.1
配布資料	p.2
参加者	p.2
プログラム内容	p.3
今後について	p.6

イベント概要

日時： 2007年1月11日木曜日 19:00~21:00

会場： 世界銀行東京事務所

主催： YDP Japan Network 事務局

協力： 世界銀行東京事務所

当日プログラム

19:00 – 19:30 シンガポールでの世銀総会の参加報告、YDSの説明、WDRの説明

19:30 – 20:30 事例報告

* 第4回 C-fa フォーラム「開発教育をもっと身近に。～ユースと考える
開発教育～」 大林孝典さん(学生開発教育団体 Will Be 代表)

* wAds 途中経過報告 籠田綾さん(アデオジャパンスタッフ・wAds2006
タスクフォーススタッフ)

20:30 – 21:00 質疑応答・議論・対話タイム

「開発と次世代」についての議論

司会： 大野曜子 (YDP Japan Network 事務局・国際担当)





東京大学教養学部文科三類 2 年)

スピーカー：滝口怜奈 (総会参加者、YDP Japan Network 副事務局長

東京大学教養学部文科三類 2 年)

大林孝典さん (学生開発教育団体 Will Be 代表

慶應義塾大学総合政策学部 4 年)

籠田綾さん (アデオジャパンスタッフ・wAds2006 タスクフォーススタッフ

東京大学教養学部文科三類 2 年)

配布資料

- ・ 世界開発報告 2007(World Development Report 2007) 概要 英語版 (コピー)
(希望者には日本語版も配布)
- ・ wAds2006 に関する資料 『wAds2006 の取り組み』
- ・ 第 4 回 C-fa フォーラム 『開発教育をもっと身近に ~ユースと考える開発教育~』
報告書
- ・ YDP Japan Network の紹介リーフレット
- ・ アデオジャパンの紹介リーフレット
- ・ wAds2006 VOICE! 記入用紙
- ・ 当日プログラム
- ・ アンケート
- ・ 『サンガレンシンポジウムのご案内』
- ・ Blau (ジャパン・プラットフォーム学生ネットワーク (YDPJN 加盟団体) 発行の情報誌)

参加者

【加盟団体】AIESEC : 1 名

【YDPJN の外部】9 名

【YDPJN 事務局】事務局員 6 名



プログラム内容

オープニング：大まかな流れの確認

YDP Japan Network の説明、世銀総会の参加報告 (担当：滝口)

・ YDP Japan Network の背景

2003 パリ、2004 サライエボ 2005Japan

・ シンガポールの報告：IMF/世界銀行グループ 年次総会の参加について

参加経緯：YDS からのながれ

参加セッションの説明：WDR2007 の刊行式、CSO 向けのセッションについて

今年の YDS は WDR2007 を基に行うことになったことを報告

WDR2007 の概説 (担当：滝口)

参照：<http://www.worldbank.org/wdr2007>

事例報告

【第四回 C-fa フォーラムの報告 (C-fa × Will Be)】

大林孝典さん (学生開発教育団体 Will Be 代表)

Will Be 説明

活動内容

なぜ中高生へのアプローチが重要か

若者の視野、そして学生団体・開発分野の世界を広げるためにも中高生へのアプローチが重要。若者は将来を担う、今若者に投資すべき

C-fa フォーラム協働事業について

【協働のきっかけ】

ノウハウの共有、発信力を強めたかった

【事業内容】

社会に発信する公開ワークショップ

広い参加者層の獲得：高校～大学院、社会人

第一部 パネルディスカッション

第二部 ワークショップ体験

第三部 参加者ディスカッション

【協働した効果】

・主催者側

団体運営等悩み・対処法の共有

開発教育について深く考える機会

社会人からの有意義なフィードバック

・参加者側

「世代間交流の面白さを実感した」などの声

・社会へのインパクト



コースのプレゼンス “ 開発教育を提供するコース ”

報告書を ML や各 HP,メディア (ODA 新聞)

二次的効果 (参加者、主催者がもたらす効果) が期待される

・反省点

少人数による企画固め

他のコアではないメンバーとの認識の格差

日程調整の難しさ など

・質疑応答

will be の開発教育の定義は ?

一般定義を応用した上で「教育の手法・方法」に重点を置く

詰め込みではなく参加型の教育による

教材 : 典型的なものではなく 差別化

前提としての多様性を大事に、メディアリテラシー

生徒の反応は ?

様々

意識の高い子 期待していた反応を示してくれるが、楽しかった、新鮮だった、などシンプルな反応も多い

重要なのは頭の片隅に残すことだと思って活動している

! 反応によってこちらが学ぶこともある

ex 「メディアリテラシー」 in 埼玉の某中学校

あなたの情報源は ? 生徒 A 「歴史」

一番反応のよかった / 悪かったテーマは ?

「多様性の理解」についてのワークショップ内のゲーム : 人種当てゲーム

内容 : 写真(実は国民的スター)から国当て

日本人的にはスターオーラなしの各国のスターたち 己の色メガネに気づく

【wAds2006 の取り組み】

籠田綾さん (アデオジャパンスタッフ・wAds2006 タスクフォーススタッフ)

アデオの簡単な説明

wAds の説明

wAds という冠によって各イベントを大きく見せることがポイント

- ・背景 : 若者のエイズ感染者増大中
- ・背景 : 性教育の整備がなされていない
- ・背景 : 活動主体が散逸状態 顔の見える関係をつくる必要性

wAds2006 の目的 : コースの連携と次世代における枠組みの創設

- ・当事者としての若者の声を集める
- ・本音をさらう 真の対処法

- ・ユースがユースに対して行うことで可能になる
- ・キャパシティービルディング

活動内容

- ・期間中 32 のイベントを実施
 - ex. 国際機関とのコラボ、学園祭参加、クラブイベントの実施、コロンボエイズ会議に向けたシンポジウムなど
- ・全てのイベントで共通スローガン「VOICE!」 連帯意識醸成
- ・12月1日エイズデー本番
 - 街頭キャンペーン×クラブイベント、渋谷区の保健所と協力

成果

- ・連携関係の拡大、緊密化
- ・保健所、地方ユース

課題

- ・モニタリングと評価 プライベートな領域に踏み込む必要性、評価基準は？
 - 社会的な信頼を獲得するため M&E
- ・次のステップに進むこと
- ・ユースであることについて プロフェッショナルである必要は？
- ・2007 に向けて
 - 集まった Voice をどうするか
- ・ユース間の更なる連携
- ・中長期計画の立案
 - 2月26日ワールドユースデーに向けて企画立案中

質疑応答

質問：滝口さんへ

- ・WDR2007 に「公平性を確保」とあるが何についての公平性？
 - 経済的格差について
- ・世銀は WDR2007 に基づく具体的な政策を提案しているか？

WDR は影響力はある。WDR2007 は政策のアドバイスとして位置づけられている。

質問：スピーカーの 2 人へ

活動をしていて社会側からの反応は？ 関心を持つ人は「ユース」に関心を示すのか、それとも活動内容に関心を持つのか。

・ Will Be

社会の反応：厳しい、「知り合いの先生」（もともと意識あり）等のコネがやはり重要

- ・「受験にプラスにならない」ということから学校側から開発教育の依頼が来たりはしない
- ・手続きが大変（企画書、職員会議での承認、校長の承認、PTA の承認等が必要）



・アデオジャパン

保健所を通して学校等に入る

- ・保健所は「ユース」に着目している

ex エイズ学会 in 東京

「ユースセッション」の開催 アドボカシーについて、学校の性教育について

- ・エイズというテーマについても社会的関心が高まっている

ex レッドプロダクト、アイポッド赤 「エイズ」が注目されている

・国連研究会（参加者から）

「ユース」が注目されていると思う。

ex 国連大学からの要請 国連大学学会の学生部にしてもらっている

理由：金銭面での理由？

でも「ユース」だから甘く見られる、もやっぱりあると思われる。

「ユース」が社会に発信していくのは確かに難しい面もあるが、テーマやアプローチの仕方によっては、可能性は十分ある。

今後について

今回のイベントに関連して、

- ・ WDR2007 についてのテレビ会議：2月
- ・ そのテレビ会議に向けたオンライン上の議論である E-Discussion：1月16-31日

のふたつが行われる予定であり/行われており、YDPJN 事務局国際部としてはこれらへの準備や参加を行っていく。

